



大沼 瑞穂氏

DCに向けて  
外国へのアプローチが必要。  
ケネディ大使が来県すれば  
日米の市民交流は加速する。

大沼 山形DCに向けては県民一人一人が地元歴史、伝統を守る力を高めていくことが大事。「おもてなし」の意気込みがあれば、機運はさらに盛り上がるだろう。情報発信、市民交流といった外国へのアプローチも欠かせない。例えば香港、台湾の人は雪に非常に興味を持っている。こうした「外からの視線」を分析して本県の魅力を積極的に発信し、誘客につなげてい。日中・日韓関係については政府間交渉が没交渉だが、政治状況に左右されない人間関係、自治体同士の関係を築くことが必要だ。日米関係は、ケネディ大使の来県が実現すれば、市民交流がさらに加速する。これらの交流促進を通して山形DCが大成功することに期待している。

大沼 (15年春に新幹線が金沢まで延伸する)北陸が団結して誘客を進めようとしているが、本県も良い意味で刺激を受け、インフラ整備などを強力に進める必要がある。また、県内の伝統芸能に外国人が参加しているケースを見たことがない。国外に情報発信していくためには議論すべきテーマだ。担い手の継承、高齢化といった問題に直面する伝統芸能も多く、小学校の教育にどのように組み込んでいくのかも重要になる。国の規制改革会議では(土地利用が制限される「農用地区域」で)農家レストラン建設の規制緩和が進められようとしているが、こうした動きにいち早く対応する踏み込んだ姿勢が今後は重要になる。法律施行時には万全の態勢を整えたい。